

## 「はちプロ学生部 2023」活動報告書

作成者：特定非営利活動法人はちろうプロジェクト 事務局長 鎌田 洋平

### 【事業概要】

八郎湖や環境教育に関心を持つ有志大学生を集め、八郎湖での体験、環境に関する講座などの活動機会を提供・交流するためのグループ。2016～2018年度、秋田県立大学や秋田公立美術大学の有志学生と、八郎湖再生をシミュレーションするゲーム教材「はちリバ～HACHIRO REVIVAL～」を開発したことをきっかけに、2019年度から取り組み始めた。現時点では秋田県立大学や秋田公立美術大学の学生が中心だが、基本的には関心を持った学生なら誰でも受け入れている。

### 【参加学生数の推移】

2019年度：メンバー11人、参加延べ人数 —（記録なし）

2020年度：メンバー12人、参加延べ人数 52人

2021年度：メンバー19人、参加延べ人数 111人

2022年度：メンバー31人、参加延べ人数 98人

2023年度：メンバー31人、参加延べ人数 123人

上記の通り、2023年度の人数は前年度と同数だったが、初めて国際教養大学の学生を3名メンバーに迎え入れることができた。「八郎潟モグリウム」設置校である秋田中央高校から「モグリウムの研究を継続したい」と秋田県立大学に入学してきた学生が2名おり、生きもの好き仲間も連れてきて積極的に活動に参加した。さらに、高校3年時に当法人を訪問し、それをきっかけに秋田公立美術大学に進学したという学生も参加した。

これらのメンバーは、環境学習プログラム実施やモグリウム定期調査などにおける貴重な戦力となっている。また、今回のインタビューを通して現在の大学1・2年生はコロナ禍を受けて様々な体験に飢えていることがわかった。一方で古民家・湖北邸に代表される地域住民団体は若者との交流を欲しており、学生部の活動がそのマッチングに一役買っていると言える。今後もこうした体験・交流の機会を増やすことを通して、八郎湖流域の地域活性化に貢献する活動に発展させていきたい。

### 【2023年度「はちプロ学生部」の主な活動】

No.	実施日	活動名	参加メンバー人数	活動概要
1	5/12(金)	御所野学院高校・八郎潟干拓ロールプレイ	2人	出前授業として初実施するプログラムをサポートしてもらった。一人はOG。
2	5/14(日)	「八郎潟モグリウム」見学会	10人	「八郎潟モグリウム」水槽設置場所を見て回り、顕微鏡観察も行った。
3	5/15(月)	秋田公立美術大学「地域プロジェクト演習」アオコとミジンコの大切な関係	7人	林紀男氏の講義を聴き、モグリウムの活動への理解を深めた。
4	5/28(日)	八郎太郎ウォーク冊子完成記念ミニ講演会	1人	冊子「行こう！八郎太郎ウォーク」完成記念イベントを手伝った。
5	6/1(木)	秋田県立大学・アオコとミジンコの大切な関係	6人	林紀男氏の講義を聴き、モグリウムの活動への理解を深めた。
6	6/4(日)	NPO法人バニヤツツリー講座・はちリバ体験	2人	当法人開発ゲーム教材の体験講座で、参加者兼サポートをした。

7	6/7(水)	NHK「ニュースこまち」取材	3人	県立大生3名が取材を受け、モグリウムについて語った。6/16に放送された。
8	6/20(火)	天王小学校4年生 出前授業サポート	1人	八郎湖へ行く出前授業をスタッフとしてサポートした。
9	6/24(土)	塩曳潟・生きもの調査	4人	杉山秀樹氏らの指導の下、塩曳潟の生きものについて調査・観察した。
10	6/25(日)	田舎ぐらし大学みたね・佃煮作り体験	2人	三種町・大潟村の水路で魚取り体験後、ワカサギの佃煮作り体験を行った。
11	7/1(土)	モグリウム見学&採水会	4人	次の日のカタマルシェに向け、モグリウムを回って顕微鏡試料の採取を行った。
12	7/2(日)	カタマルシェ・環境学習ブース	5人	親子向けイベントに環境学習体験ブースを設置し、スタッフとしてサポートした。
13	7/11(火)	草木谷ホテル観賞会	4人	谷津田再生の取り組みを行っている草木谷へ行き、ホテルを鑑賞した。
14	7/7(水)	生態系公園モグリウム設置	1人	大潟村生態系公園にモグリウムを設置した。
15	8/8(火)	豊川・八郎湖 水生生物調査	4人	豊川の上・中・下流、八郎湖2カ所での水生生物調査を行った。
16	8/29(火)	井川義務教育学校4年生 出前授業サポート	2人	流域河川の井川へ行く出前授業をスタッフとしてサポートした。
17	9/3(日)	八郎潟・八郎湖学研究会 八郎太郎伝説ツアー	1人	「八郎太郎伝説」にまつわる地を巡るツアーに参加した。
18	9/18(月祝)	八郎湖子ども交流会	2人	小学生親子向け体験イベントを、スタッフとしてサポートした。
19	9/27(水)	馬踏川・八郎湖 水生生物調査	5人	馬踏川の上・中・下流、八郎湖2カ所での水生生物調査を行った。
20	9/30(土)	プロジェクトWET 講習会	2人	講習会に参加し、プロジェクトWET エducatorの資格を取った。
21	10/1(日)	新屋高校モグリウム設置	3人	新屋高校へのモグリウム設置作業を手伝い、理科研究部の高校生と交流した。
22	10/7(土)	あきたESDネットワーク・栗駒自然観察会	2人	栗駒高原の自然観察会に参加し、スタッフとしてサポートした。
23	10/18(水)	ティンバラム(株)モグリウム設置	1人	ティンバラムへのモグリウム設置作業を手伝い、担当社員と交流した。
24	11/12(日)	げんちゃん農園・キウイフルーツ収穫体験	3人	工藤元太郎氏の農園へ行き、キウイフルーツの収穫を体験した。
25	12/2(日)	第3回八郎潟モグリウム活動成果報告会	6人	県立大生3名は発表者、美大生3名は参加者。会場は古民家・湖北邸。
26	12/23(土)	プロジェクトWET 講習会@遊学舎	0人	県立大・金澤伸浩氏主催。案内はしたが、メンバーの参加は無かった。
27	1/21(日)	八郎潟・八郎湖学研究会 潟さべり	1人	秋田公立美術大学博士1年・津田啓仁氏が話題提供者として登壇した。
28	2/3(土)	湖北邸・昔の正月再現イベント	3人	古民家・湖北邸のイベントに参加。もちつきを体験し、地域住民と交流した。
29	2/8(木)	学生部インタビュー&ワークショップ	7人	2023年度の主要メンバーを対象に、インタビューとワークショップを行った。
30	2/18(日)	IUCN-J(国際自然保護連合日本委員会)ワークショップ	5人	国際教養大生が主催した企画に参加。教養大生の新メンバーがグループに入った。
31	2/19(月)	秋田花まるっグリーンツーリズム推進協議会・SDGs勉強会(はちリバ体験)	3人	講師・はちプロのスタッフとして、参加者のゲームの体験をサポートした。
32	2/27(火)	秋田中央高校1年(文系)はちリバ体験	2人	出前授業をスタッフとしてサポートした。2人は同校OBである。
33	3/18(月)	秋田中央高校1年(理系)はちリバ体験	2人	出前授業をスタッフとしてサポートした。2人は同校OBである。
34	3/22(金)	【オンライン】ゲンゴロウ学習会	3人	元学生部メンバーで本会会員の菅原青空氏に、ゲンゴロウについて教えてもらった。
35	3/25(月)	湖北邸・竹刈りイベント	3人	古民家・湖北邸のイベントに参加。竹やぶを刈り、庭を整備した。

36	7~11月	モグリウム新パンフレット制作	2人	「八郎潟モグリウム」の新パンフレットを美大生がデザインし、印刷・配布した。
37	通年	モグリウム定期調査（県立大、美大、生態系公園、井川義務の4カ所）	9人	月1回×12回分の調査データを取った。データはGoogleドライブで公開。
合計（延べ人数）			123人	

【主な活動の様子】



↑5/14 モグリウム見学会



↑7/2 カタマルシェ



↑9/27 馬踏川・八郎湖水生生物調査



↑9/30 プロジェクトWET 講習会



↑10/1 新屋高校モグリウム設置



↑2/3 湖北邸・昔の正月体験

## 【学生部インタビュー&ワークショップ報告】



安藤日菜さん、五社光希さん、津田啓仁さん、南千春さん、常田要介さん、高橋聖哉さん、藤山達史さん

### 【実施概要】

日時：2024年2月8日（木）13：30～17：00

会場：秋田県立大学 秋田キャンパス 講義室

参加者：学生部メンバー7名

秋田県立大学 藤山達史（3年）、南千春（2年）、常田要介（1年）、高橋聖哉（1年）

※藤山さんは聴講参加のためインタビューは行わず、ワークショップに参加した。

秋田公立美術大学 津田啓仁（博士1年）、安藤日菜（2年）、五社光希（1年）

司会：NPO 法人はちろうプロジェクト 事務局長 鎌田洋平

オブザーバー：

- ・秋田県立大学 谷口吉光 教授（兼はちろうプロジェクト代表理事）
- ・秋田公立美術大学 菅原香織 准教授
- ・秋田県立大学 職員 佐藤末祐 氏

### 【活動目的】

2023年度の「はちプロ学生部」に参加率の高いメンバー7名に対し、インタビューとワークショップを行った。その内容から、「はちプロ学生部」の今後の目標や課題を明らかにする。

### 【イベント内容】

#### 1. 2023年度活動ふり振り返り

#### 2. 個別インタビュー

- (1) 氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。
- (2) はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えてください。
- (3) ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

#### 3. 全体ワークショップ

## 【「2. 個別インタビュー」結果】

氏名	南 千春
所属	秋田県立大学 生物環境科学科
学年	2年
出身地	北海道（札幌市）



(1) 氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

南 大学での個人的な目標が色んなことに挑戦することで、できることは全て挑戦しようと思っています。いろんな活動に積極的に参加していくことを意識しています。

鎌田 最近は留学をしたって話ですよ。どこに行ったんですって？

南 9月にカナダのビクトリアの方に、1ヶ月間語学研修に行ってきました。

鎌田 先ほどまでは、それ（留学）の関係の人たちで集まってインタビューを受けていたと。

南 はい、そうですね…カナダとかシンガポールとかいろんなところに行った人たちと学長・副学長と、国際交流に対しての…（笑）。

一同 （笑う）

五社 ビビりますね…。

(2) はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えてください。

南 はちプロに参加したきっかけっていうのが、大学1年生の時の自主研究を谷口先生のところでやらせてもらったんですけど、林紀男先生（千葉県立中央博物館の学芸員。モグリウムスの提唱者で、プランクトンの専門家。）のミジンコの講義で鎌田さんと会って。「入ってみたいかい？」「あ、じゃあ入りませう。」って軽い感じで、いろんなことができるから入っていて損はないなと思って深い理由はなく、楽しそうだからで参加しました、初回は。

鎌田 なんかね、うっすらと覚えているのが…はちリバ（はちプロ開発のゲーム教材）一回やらなかったっけ？

南 やったかもしれないです。それが最初だったかどうかは覚えていません。

鎌田 林先生の話はその後だったっけ？まあいいか（笑）。

一同（笑う）

南 何かの講習の時に谷口先生から紹介してもらって「せっかくだから入らない？」って感じで。あ、八郎湖に興味を持ったきっかけ…自分が大湯村（の寮）に住んでいて近くにあって、いろんな問題を抱えていて、環境学科でも関わってて。興味があったからです。



2022/5/18 生きもの調査説明会  
（はちリバ実施）

鎌田 八郎湖のことは元々知ってましたか？

南 知らなかったです。失礼ながら…授業などで触れなかったのもあって。

鎌田 じゃあ高校生までは八郎湖のことは聞いたことがない…みたいな。

南 そうですね…秋田に来てから…というか大湯村に住むと決まってから「大湯村って干拓地だったんだ。」みたいなところから始まって、授業とかを通して結構詳しくなって、大変なんだなあといった…軽い感想みたいになっちゃうんですけど、はい。

鎌田 授業でやったっていうのはいつ頃だったんですか？

南 いろんな記憶が混ざっちゃって、いつの記憶かわからないです。でも、1年生の時からあらゆる授業を通して講義の節々で、八郎湖のアオコであったり水質汚染とか浄化とかの問題であったりとか、結構特殊じゃないですか。防潮水門で塞がっちゃって…とか。そうして色々触れてたのもあって、ちょっとずつ詳しくなっていく、で、はちプロで周りの環境に触れたのもあって。はい。

鎌田 参加したきっかけは楽しそうだったからってさっき言ってくれたけど、どの辺が楽しそうだったんですか？

南 すごい薄いですよ、なんか…（笑）。大学のうちにたくさん挑戦したいってさっきも言ったんですけど、そういう関係でいろんなところに関係を持ってそうだなあと思って…。そういうチャンスをもらせるなら参加しておきたいなっていうのが、一番最初でした。

鎌田 実際いろんなところに行けてますか？

南 そうですね。いろんなところに連れてってもらって、いろんな経験をさせてもらってます。

（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

鎌田 ここまで学生部の活動、南さんの場合は1年生からになるからもうすぐ2年になると思うんですけど、活動に参加して、八郎湖や環境に関する意識はどう変わりましたか？

南 変わったといえば、一番大きいのは考えるようになった、が正しいですね。昔は全然そこまで深く考えてなかったっていうのもあって…それがいろんな活動に参加していくうちにいろんなことを知って興味関心を持って、八郎湖について考えるようになったのが大きな変化かなと思いますね。

鎌田 今、前は深く考えてなかったって話ですけど…じゃあ、そもそもなんで県立大の生物環境科学科に入ったんですか（笑）。

南 あ〜、環境学科に入った理由は、フィールドワークがしたかったからです。

環境を変えたいとかっていう大層な志は持っていなかったんですよ。大学を受験するときに志望校がなかなか決まらなくて…学力的にもどうしようかなあと。北海道って北海道大学（北大）しかないんですよ。北大なんて壁が高すぎて、本当に上位一部の人しか行けないのもあって…。そしたら北海道出なきゃいけないだろうってなった時にやりたかったのがフィールドワークで。“大学”“フィールドワーク”で検索したときにトップに並んでた…（笑）。

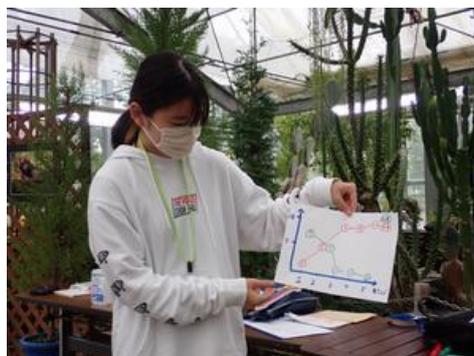
一同 ええ〜！？（笑）

南 県立大で、そこでパンフレットを取り寄せたんですよ、ちゃんと。それでいくつか出てくるじゃないですか、それで出てきた大学のパンフレットを全部取り寄せて、一通り読み込んでみた結果、県立大が一番…（笑）。

五社 すご〜い。

鎌田 学長さんとのインタビューでは話せなさそうな話だねえ（笑）。

一同 （笑う）



2022/10/10 プロジェクトWET 講習会

南 確かに…。 “大学” “フィールドワーク” で検索ボタン押しましたなんて絶対言えない（笑）。

常田 北海道って結構自然豊かじゃないですか？僕、北海道出身なんで…。正直農大とかもあるじゃないですか、帯広とかも…。

南 帯広畜産大学も頭いいじゃないですか…！

常田 そうですけど、フィールドワークとかも関係ある大学じゃないですか、帯広畜産大学も！

南 畜産というよりは、どちらかという自然というか、山とか川の方がっていうのと、金銭的な面があって私立大学は厳しくて、国公立大学に行きたくて。変なこと言ってるかもしれないですけど、ハイ。

常田 海・川というよりかは山・地なんですか？水っていうよりかは陸地…対象が。

南 対象…もうフルでしたよ、全部。絞り切れてなくて、高校時代は、高2まではずっと、獣医になりたかったんです。

鎌田 おお～。

五社 じゅうい…。

南 あ、動物のお医者さんの獣医ですよ（笑）。獣医になりたかったんですけど、ちょっと現実を見て…かなり厳しい道のりだなあと。医者より頭いいとか…学力的に見るとそうだったりして…生々しい話ですけど、ちょっと（笑）。でも、そうですね、そういう面が足りなかったのもあり、じゃあ自分は今後どうしたいんだろうと思って、ずっと獣医が良かったんですよ。小学校の3年生くらいから高2までずっと獣医になりたくて。

五社 結構長い…。

南 でも、他の夢を考えてなかったんですよ。だからその獣医って夢が途絶えた時にどうしたらいいかわからなくなっちゃって…。これから先どこに行こう何をしようってなった時に昔から親がたくさん自然に触れさせてくれたのもあってそういうのが好きだったんで、じゃあそういう方面に進もう、と思って。じゃあ座学よりは自分の目で見て触れて体験しておきたいなって意思が強かったので、じゃあフィールドワークがいいなあとと思って、大学フィールドワークにつながるわけですよ（笑）。

鎌田 なるほどね～。わかりました、ありがとうございます。

南 大丈夫ですかね？こんな話で。

常田 人それぞれやな。

鎌田 県立大関係者の皆様にとってはどうか知らないですけど、私たちは全然オッケーというか、面白いです（笑）。



2023/6/25 エビ取り・佃煮作り体験

高橋 俺も生き物に触れ合いたいってくらいでこういうところに来てるので…（笑）。なんかあんまり人のこと言えないっていうか。

常田 あれ、俺だけ？県立大学についてちゃんと考えてたの…（笑）。

五社 私も進路決定は…（笑）。

鎌田 まあ考えてる人は素晴らしいということで（笑）。



氏名	常田 要介
所属	秋田県立大学 生物環境科学科
学年	1年
出身地	北海道→新潟→愛知→秋田



(1) 氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

常田 常田要介です。秋田県立大学の生物資源科学部の生物環境科学科に所属しています。今1年です。出身なんですけど、自分北海道で産まれて、そのあと色々転勤重ねて…新潟、愛知、で今秋田にいて、ちょうど秋田に今年で8年目になります。で、今大学で頑張っていることは、まず留年しないために勉強頑張っています（笑）。

あと、今“チームインセクト”っていうサークル活動で、水生生物の標本とかを作ってる…。

五社 ああ、前獲ってた…。

常田 このコガムシが7月1日にモグリウムを回ったときのやつで、こちらのヒメミズカマキリの方は、9月27日の馬踏川と八郎湖の旧湖岸で採取したものになりますね。

鎌田 おお～。

常田 そのとき採取したやつが複数残ってるんで、それをちょっと早めに、春休み中に標本にしてしまうこと…ですね。

鎌田 まだ生きてる？

常田 まあもう全員死んじゃって、今冷凍して保存してます。

五社 コールドスリーブ…。

常田 普通にこういう感じで昆虫好きなんで、今カブトムシとクワガタムシの幼虫を数十匹程度、飼育してます。…以上です。

津田 カブトムシ、クワガタムシもこんな感じでやるものですか？ \*常田さんの標本を見ながら\*

常田 まあ死んだら、これにしようかなって感じかな。

五社 すごい。

(2) はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えてください。

常田 自分が学生部に参加した理由が高校の時の自主研究で、八郎湖モグリウムを使って研究をやったんですけれども、その理由が色々ありまして。丁度僕がいた秋田中央高校って“SSH（スーパーサイエンスハイスクール）”の指定校で、2年生になったら自主研究を必ずやらなければならないっていうものがありまして…。

で、そこでっていうのもありますけども、僕そこで科学部（正式名は“躍進探究部”）に入ってたんですよ、丁度。そこで当時の生物の先生だった…アレ、名前が出てこない…(笑)。



2021/5/23 美大モグリウム設置  
(高校時代)

鎌田 じゃあ思い出してもらってる間に皆さんに少し解説を挟むと、常田君が高校1年生の時だけ？モグリウムを設置したのは、秋田中央高校にモグリウムが設置されて、常田君と加羅谷君がその科学部の部員だったんですね。で、モグリウムをテーマに自主研究を進めてくれて、それがきっかけで、高校生の頃から知ってるっていう感じです…わかった(笑)？

安藤 (笑)

常田 あ、片桐先生だ、片桐先生！（片桐浩司氏：林紀男氏の紹介でつながった水草の専門家）

ちょうど1年生の最後くらいに片桐先生が東京の大学に行くことになって。そのお別れ会の前に、先生の方から「はちろうプロジェクトっていう面白い話があるんだけど、ちょっと興味ない？」っていうので誘われて…で、その時にちょうど設置箇所を色々回るモグリウム見学会があるから行ってみたいなかって誘われて、そこからモグリウムに興味を持って。その時話してる…かまへーさんだったかな？に「モグリウムの設置箇所によってモグの発育が全然違う」って話があって、じゃあ面白いからそれ研究してみようかなっていうので研究し始めて、そこで研究のために何回か回って水採取して、そこにいる生物だったりとか、その水質だったり調べて、全然違うし、それによってモグの生育も全然違ったりとか…またそこに来てる水生生物とかにも全然違いがあって「あ、これ面白いなあ」ってなって、で、その研究を続けたいと思って丁度県立大に入ろうかなって思った点はあったんで。そこがはちプロ学生部に参加した理由…まあ片桐先生に研究に誘われたっていうのが理由ですね。

で、八郎湖に興味を持ったのも丁度はちプロに参加してからです。自分通勤族だったんで各地の話題とか自分の身近に感じなかったりというのがありますし、こっちに来たのが小学校6年生とかでした。秋田についてちゃんと調べようっていう学習が小学校4・5年生あたり（秋田ではこの時期の総合学習で地域や環境について学ぶことが多い）っていうのを弟妹たちに聞きました。けれども、自分は丁度それを全くやらないまま来たので、八郎湖についても家族のドライブで行って「ここが元々干拓地だったんだよ～」「へ～」と流しちゃった感じで全然興味もってなくて。で、ただ研究の中で八郎湖が干拓によって水質悪化とかそういう問題になって地域の問題について自分の身近で結構やばいんだなって思ってじゃあこの八郎湖どうすんだって自分で思ってっ感じですね。

鎌田 なるほど…それで県立大に入ったと…ありがたいですね、谷口先生。ついでに聞くんだけど伽羅谷君（高校時代から一緒に活動している友人で、学生部メンバー）とはどの辺からの繋がりなの？

常田 伽羅谷とのつながりもちょうど研究ですね。

鎌田 高校からなの？

常田 高校からですね。高校1年生の最後に全員に紙を配ってどういう研究をしたいか書いて、それに似通った人を3、4人くらい集めて、理系グループは科学・生物・物理で3グループに分かれて、「じゃあ君は生物グループの何班ね」という感じで似てる人たちを集められるんですよ。そこで、伽羅谷と一緒にになった感じですね。



2023/7/11 草木谷ホタル観賞会

鎌田 じゃあそれ以来のコンビなんですね。

常田 も、ありますしもともと同じ科学部っていうのもあったんですよ。ただ元々一緒にいるなーくらいの（笑）。

(3) ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

常田 今まで活動を通して考えが変わったことについては、やっぱり豊川・馬踏川・八郎湖の水生物調査とかと、あとやっぱり林紀男先生の講演会とかが印象に残っています。

水生生物調査に行った際は上流はやっぱり生物の多様性というか、在来種とかも結構多いですし、生物の種類とかも多かったんですけど、下流に下りていくうちに生物の数が少なくなってきたりしました。二つの川で言うと、両方とも上流は結構澄んでるんですけど、下流まで行くと濁ってたりとか…豊川だと完全にもう濁ってて。まあ、言っちゃえばヘドロ質の地面とかになってましたし。外来種が多くなってきましたし。特にアメリカザリガニとかウシガエルとか、特定指定の外来種とかが多くて逆に在来種が全然いない状況になってたりとか。見てみるとやっぱり上流のあんまり人の手が触れてないところはまだ自然が残ってる感じがしてたんですけど、やっぱり下流で人の手が加わっていくと、人間によって持ってこられた生物の方が多くなっていたりとかして…元々あったものが無くなってきてるんじゃないかってことは思ったりもしました。

だからそういうのも残すためのモグリウムっていうのを考えたりはするんですけども…それをいざ八郎湖に戻してみようってなると、やっぱり外来種の食害とかによってやっぱり増えたところで…ってなっちゃうんで。今モグリウムに植えてあるモグが八郎湖にいっぱい残ってた時代の生物環境とは今完全に変わってしまってしまってるんで。まあ、今水草を戻していくってなると、今の生物環境に適したようなやり方…なんだろうな、適していかないと水草も戻らないと思いますし、変えるとなるとまずは今の生物環境と共存していかなくてはいけないのかなとしたりもしましたね。ただ、八郎湖自体の水生物調査も行った時にそういう風にマイナスな面もあったんですけど、八郎湖の旧湖岸帯とかも調査しに行った時に丁度ヒメミズカマキリとか捕まえられて…ちょっと調べてみたら全国的に

数減らしてる種だったりとかもあったんで、まだ生き残ってるのとか見ると、まだ秋田は八郎湖を直していくと在来種とかの保全に力が入っていくのかなとは思いました。

鎌田 なるほど。常田君の研究テーマはそういう方向（生物多様性の保全）に進んでいくことになるのかな。

常田 やっぱ自分は生物環境学科なんで。生物と環境の組み合わせなんですけど、でもやっぱり思ったのは、下流は水生昆虫が減って行ってるな…とは一番思いましたね。上流とかはヘビトンボとかオニヤンマとかコオニヤンマとか…ヤゴとか…水生昆虫とかも種類も豊富だったんですけどやっぱ下流とかになると水生昆虫自体があんまり見えなくなっている感じの…やっぱり水生昆虫の多様性についてがちょっと一番気になってますね。

鎌田 水生昆虫の多様性…じゃあこれから期待してますね。

常田 はい

鎌田・常田 (笑)



氏名	高橋 聖哉
所属	秋田県立大学 生物環境科学科
学年	1年
出身地	岩手県（花巻市）



(1) 氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

高橋 大学で頑張っていることは、僕、生き物が好きなので休日とかに公園とか森に行き、キノコとか昆虫の写真を撮影したりしました。

あと、僕は結構水生昆虫も好きなのでモグリウムも、観察（定期調査）の時も行きますけど、それとは別に個人的に大学とか、あと生態系公園のモグリウムの様子を観察してました。あとはまあ、勉強も…ポチポチ、頑張ってます(笑)。

鎌田 (笑)…ありがとうございます。こないだも、発表（「第3回八郎湖モグリウム活動成果報告会」で常田さん・伽羅谷さんと3人で事例発表）してもらいましたもんね。

五社 わあすごい。

鎌田 ゲンゴロウのことがとても詳しくって、色々まとめて発表してもらいました。

常田 今ここに無いんですけど、さっきいた部室にゲンゴロウの標本が5個くらいありますね。なんだっけ、あれ。

高橋 なんだったかな…多分ヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウっていうゲンゴロウの標本だったと思う。

鎌田 へえ～



2023/12/2 第3回モグリウム報告会

(2) はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えてください。

高橋 はちプロ学生部に参加した理由は、さっきも言ったんですけど僕、生き物が好きで。(常田) 要介と伽羅谷で二人ではちプロについて会話してたと思うんですけど、それについて盗み聞きして…(笑)。

鎌田 (笑う)

高橋 面白そうだなって思って、「僕も参加していいかな」と尋ねたら、なんかいいって、許可貰ったんで…それで、参加した感じですね。実際に活動に参加したのは5月のモグリウム見学会からですね。八郎湖に興味を持ったのもこのはちプロに入ってからで、単純に最初はいろんな生き物に関わる機会が増えたらいいなって思ってたんですけど…まず、八郎湖秋田に来る前はただ干拓したところって認識しかなかったんですけど、今回はちプロに入って八郎湖について学んでうちに、昔、それくらいいろんな水草が生えていたところだったんだなって思ってそれで興味が湧いた感じですね。

鎌田 はい、ありがとうございます。あ、ちなみにその干拓した場所だというのはどういう形で知ってましたか？

高橋 どういう形なんですかね…？あ、でも僕の場合元々生き物好きだったので生き物と地理とかもよく関わってくる人が多いので、それで地理にも少し興味あって、調べてうちに知ったんだと思います。

(3) ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

高橋 学生部の活動に参加して…さっきのインタビューで話したところと被るところもあるんですけど、元々僕八郎湖のことは知ってましたけど、それこそ干拓したところとか大瀧富士があるところとか、それくらいのことしかわからなくて。それで実際活動に参加してみて、正直大瀧村も初めて来た時になんかずっと平坦でおんなじ風景ばかり広がって、なんかちょっとつまらない場所だなって思ってたんですけど。

一同 (笑う)

高橋 実際学生部の活動に参加してみると、まだ結構そういう状態でもいろんな生きものとかが残ってたりするし、八郎湖の環境問題についても、僕そもそもそういう問題があるってことも知らなかったので知識が深まったっていうか…なんていうんだろう。知識が深まりました。ハイ。



2023/10/1 新屋高校モグリウム設置

それで、そうですね。環境に対する意識については、正直僕は前からあんまり変わってないっていうか…僕は小さい頃からずっと生き物と触れ合うような趣味でしたし…。まあそれで、確かに小さい頃にいた生きものが年経ていくごとにいなくなるっていうのは確かにあるんですよ。例えば僕ゲンゴロウ好きなのでゲンゴロウを例に出しますけど、クロゲンゴロウっていう生き物いるんですけど。僕のいとこの家が結構自然豊かなところであって、それでお盆とかに帰って虫取りするのがすごい楽しみだったんですけど、それも年経るごとにいなくなるワケですよ。そこがお母さんの実家なのでお母さんに聞んですけど、そして昔は僕の子供の頃にもいなかったナミゲンゴロウっていうもっと珍しいゲンゴロウがいるんですけど。それが昔はいたってことなので、どんどんお母さんの子供の頃から僕の子供の頃になるとナミゲンゴロウがいなくなってるし、僕の小さい頃から少し大きくなった頃だとクロゲンゴロウもいなくなってるしっていうことで、まあどんどん減っていったってことはやっぱり環境が悪化してるか、悪化はしてないけどクロゲンゴロウが住みづらい環境になってるのかなって思って。それで、そういうのを防ぎたいって気持ちですかね。

さっきも言った通り、単純にそういう生きものがいなくなることで環境が悪化しているとイコールにならない可能性もあるんですけど、それでも今回八郎湖とかの活動を通して、八郎湖も昔はいろんな水草とか魚とかいたらしいんですけどやっぱり今は少なくなってるっていうので、それで環境保全とか大事だなって気持ちが一層強まったって感じですかね。

鎌田 はい、ありがとうございます。ちょっと確認なんですけど、活動を通して環境への意識はそんなに変わらなかったって言ってましたけど、変わらなかった意識ってどんなものでしょうか。今の話だと、自分の好きな生きものがだんだんいなくなっていくっていう状況を防ぎたいって意識ってことでいいのかな？

高橋 まあ、そうですね。

鎌田 大体合ってる？

高橋 それがまあ…実際八郎湖でもおんなじ現象があるんだなあって感じたことであって、まあ、そうですね。大筋は元から変わってないかなって感じですよ。

氏名	津田 啓仁
所属	秋田公立美術大学
学年	博士1年(社会人入学)
出身地	兵庫県



(1) 氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること(学内・学外問わず)を教えてください。

津田 津田啓仁と申します。元々出身地は兵庫県で、兵庫の瀬戸内海側の瀬戸内側なんですけど山里みたいなところに実家がありました。でも実はそこで生まれたんですけど、生まれ育ったのは神戸市の中で。明石海峡大橋ってみなさんご存知ですか。淡路島を繋ぐ…めっちゃくちゃでかい吊り橋があって。

五社 へー。

津田 元々そこら辺に住みながら、毎週末山里に帰るみたいな…すごいでっかい人工的な建築物と、自然暮らしと言うほどでもないですけどそういうところと、往復するような感じでやってました。

で、大学で今頑張っていることは、大きくは八郎湖の周辺でどういう風な形で自然との関わりがあるかみたいなことを研究したいなあとあって、美大なんですけど僕は論文を書きたいなと思ってるので、例えば科学的にどういう風に見られてるのかみたいなのもそうですし、文学だったりとか、詩の活動みたいなのも含めて色々ジャンル問わず今調査というか、参加させてもらってるという風な感じです。で、あともう一個だけあるとすると、先週末ちょっとしたパフォーマンスみたいなのを文化創造館って秋田駅のすぐ近くでやったりしてて、あんまり何もできないんですけどそういう踊りとか、身体表現みたいなことにはちょっと興味があるっていう風な感じです。

鎌田 何のパフォーマンスやったんですか、ちなみに。

津田 なんか、めっちゃゆっくり歩くっていうのをやってました。

鎌田 めっちゃゆっくり歩く？気になりますね…(笑)。

(2) はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えてください。

津田 僕、5月のモグリウム見学会に一度参加させてもらって、その後少し間が空いてみたいな感じだったんですけど、元々秋田に来たのも広く自然の研究というか、自然環境と人間みたいなことやりたいなあという風にあって。

津田 元々は山でどんな風に生業が生まれるかとか、それをどうやってビジネスになっていくかみたいなものも含めて研究していきたいと思っていました。けれども、いざ来てみるとそっちよりも大湫村を車で色々移動している時に、その風景みたいなのが凄い不思議だなと思って。その時に、確かに昔教科書で読んだ干拓とか八郎潟っていうことを思い出して改めて調べてみると、そんな大規模なことやってたんだ、って事にちょっと驚いて。で、これはすごい大事なことがきっと起こっているだろうと思った時に、丁度はちプロのモグリウム見学会をメールで拝見して、是非行きたいなと思って参加しました。…って感じですね。

で、もうちょっと踏み込んで8月に水生生物調査に参加して思ったのは、自然の解像度が高いなど。例えば、皆さん昆虫の名前をすごいご存知だとか、実際に大きな養殖タンク（モグリウム）を使って生簀みたいな形で自然を作り出してるというか、育てているみたいな感じでやられてるのが結構不思議な活動でもあるなと思ってて…そのあたりに凄く興味を抱いたっていう気持ちですね。



2023/8/8 水生生物調査

鎌田 自然の解像度が高いってというのはどういう意味なのか、もうちょっと詳しく聞いてもいいですか？

津田 例えば…「この虫の名前は？」ってなった時に僕は全然分からなかったんですけど、そういうものを特にこのお二人（高橋くん、常田君のこと）が中心になって話していました。

高橋・常田 （笑う）

津田 っていうのもあるし…そういう知識みたいなものが僕には全然なかったんですよね。なんていうんですかね、例えば、自然とのつながりみたいなのをいう時の、一個の特徴的な力たちだなんて思いますし…。

常田 そんな大したものじゃないんですけどね…（笑）。自分の場合ですけど昔から虫とか好きで、親とかに図鑑買ってもらって、昆虫図鑑。それをずっとパラパラ読んでたっていうやつで、もう自然とその時に覚えてた…。

五社 身近にある…。

常田 身近に図鑑とかがあったし。それに、昆虫に自分が興味を持ってたからこそ調べるっていうのもあったんじゃないですかね。滅茶苦茶偏見なんですけど、小学校の女子とかって虫出るたびキャーキャー言っ…、正直言っ、虫に嫌悪感抱く人が多いじゃないですか（笑）。その中でも虫自分好きだったから虫が出たキャーって言ったら女子が反対側に逃げるんですけど、自分はその逆で突っ込んでいって、「なんだあ!？」って…（笑）。

一同 （笑う）。

常田 小学校とか中学校とかそんな感じでやってたんで、自然となんか…、正直言って自分あんま詳しくなくて、一番詳しいの高橋なんですけど。

高橋 いや、そんなこと…（笑）。

常田 いや、自分だったら大雑把にこれはこういう昆虫の仲間だな一程度なんですよ。正直言ってゲンゴロウ見た時も「あ、これゲンゴロウの仲間として、大きい分類でゲンゴロウだ」って分かるくらいなんですよ。そっち系は高橋がゲンゴロウ大好きなんで、そこからもう一気に（笑）。

まあ結局個人の興味の持ち次第な感じもしますけどね…。

(3) ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

津田 八郎湖を元々ほぼ知らなかったところがあるので、変化というよりはどういう印象が芽生えたかという感じなんですけども。そうですね…この間「潟さべり」（「八郎湖・八郎湖学研究会のイベント。話題提供者として発表。」）でも話したことはあるんですけど、結構いろんな繋がりが、当然失われた繋がりがっていう観点もあるし、同時にこういう活動の中で作られるちょっと違う繋がりと

いうか、当時の繋がりをそのまま再現する感じではないんですけども、例えばモグリウムみたいな一つの装置、生簀みたいなものを使って八郎湖そのままじゃないけど仮置き場みたいな形で復活というか作られてることみたいな、新しい繋がりとかが生まれつつあるんだなということに結構驚いたし面白いなって思ってますね。それは結構いろんな観点で思うところがあって…例えば一度、佐藤さんですかね？あの、県の職員の…。



2024/1/21 潟さべり

鎌田 秋田県八郎湖環境対策室の？

津田 あ、はい、佐藤さん。お話の中で…あ、僕ちゃんと把握できてないと思うんですけど、八郎湖の水を流域の観点で行くと秋田市の浄水の範囲に入ってますよ、っていうのがあったりして、結構僕たちの生活の中にも関わっているんだよ、みたいなことが結構いろんな角度で話されたりするみたいなところは面白いなってぼくは思っていました。

鎌田 なるほど。

津田 あとは、あ、そうか…。はちプロ学生部の活動で言うと一番の話をさっきも言いましたけど、やっぱり僕は川の水質調査に行ったのはめっちゃめっちゃ大きな体験だったなと思ってて。水に入るってすごい楽しかったし、すごく疲れもしたんですけどそこで実際に魚がいるっていう感覚ってすごい大きかったって思ってて、もちろん川の上流の方にはたくさんいるけれども、下流に下るにつれて全然変わってくるみたいなことって全然感覚が違ってくると言うか…あ、川の上にはちゃんといるんだっ

てこと思うし、逆に下流の橋の近くでしたっけ？あの…ゴミのところの側のところから入っていった時に、いないとはいえちょっとはいるってこともすごくわかってよかったなと思って。なんかその体験も重ねてリアルな感覚になったと…。

鎌田 いままでそういう体験とかはあんまりしてこなかった感じですか？

津田 あんまりですね～。釣りとかは勿論あるんですけど、実際にウェーダーとか履いて足を入れて、網で直接掬ってみたいなことやるのをはじめでだし、魚だけじゃなくて虫、ヤゴとかゲンゴロウとか…ちゃんと見たのは初めてだったなって感じですね。

鎌田 なるほどなあ～、ありがとうございます。



氏名	安藤 日菜
所属	秋田公立美術大学
学年	2年
出身地	秋田市



(1) 氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

安藤 大学で頑張っていることは、私は自然とか生き物が好きなのでそれらを観察したり、あと生物部に入ってるので解剖…とかしたりしてます、はい。

鎌田 何の解剖をしましたか？

安藤 最近やったのは、この前お正月に、猟師さんが撃った鹿を丸々2頭もってきて…。

一同 おお～。

安藤 あの時は二人しかいなかったんで、一人一頭レベルでみんなで…(笑)。

五社 そっか、みんな帰省してたので…そんな過酷な。

安藤 猟師さん指導の下、真冬に外で5時間くらいかけて(笑)。

鎌田 へえ～。

安藤 でも美味しくいただきました。

鎌田 どうやって食べましたか？

安藤 色々食べたんですけど、カレーとシチューとあと煮込み料理とあと焼肉も、やりました。

一同 へえ～！

鎌田 どれが一番美味しかったですか？

安藤 背ロースの焼き肉が一番美味しかったです。

鎌田 焼肉。

安藤 はい。

鎌田 なるほど。

安藤 (笑う)



2023/6/4 はちリハ講座

(2) はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えてください。

安藤 えっと、知ってから参加するまで期間が結構長く空いたんですけど…。はちプロを知ったきっかけは高校の時の理科の佐々木先生が、私が水生生物とかを調査してたのでこんな活動あるよって紹介してくれたのがきっかけです。先生の紹介があって、はちプロの活動を知って美大に入ってから「地域プロジェクト演習」で地域と関わる授業があって、それではちプロも参加してたので、それで「ああ！」ってなって参加しました。

一同 (笑う)

鎌田 一つ思い出すのは、一回うちの事務所に来たことあったよね、お母さんと一緒に。

安藤 あ、行きました。高3の進路迷ってる時に佐々木先生が教えてくれて、それで親と一緒にお話しを聞きに行きました。それで美大でもはちプロ学生部とか、環境に関われるってそこで知れたので。そこで環境系にいくか美術系に行くか迷ってるところが、美大でもできるなら美大に行こうって決めれたので、すごくいいきっかけを作ってくれて、ありがとうございます(笑)。

鎌田・安藤 (笑う)

鎌田 そういうことだったんですね…(笑)。なるほどなるほど、いい話が聞けました。

常田 ちょっと質問なんですけど、県立大と美大どっちかって迷ってたんですか？

安藤 一応県立大と美大で迷ってたんですけど、ちょっと頭が足りないので…（笑）。もし県立大落ちた時のために、石巻の海洋学校と三つで迷ってました。

高橋 あ、そこ僕も一応…試験は受けてました（笑）。

安藤・高橋 （笑う）

常田 どういう感じなの？そこは。

高橋 どうだったかな…でもそこも生き物のことやる…。



2023/7/2 カタマルシェ

安藤 海が近いので海の研究をやる…。

鎌田 確か、高校の時賞取ってたあの絵。新聞の環境問題の記事をスクラップして傷ついたくじらの絵にしていた…。

安藤 あ、ありました。

鎌田 なんか覚えてる。

安藤 あ、ほんとですか、ありがとうございます（笑）

鎌田 安藤さんって学生がいるんですって紹介されたのは覚えてる。そこからこうして再会できるとは思いませんでしたけど。

安藤（笑）

（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

安藤 はい。私は、調査系の活動よりもカタマルシェとかカードゲーム（はちりバ）とか、環境ロールプレイ（八郎潟干拓ロールプレイ）とか、そういう人に伝える方の活動に参加が多かったんですけど、それもあって、環境について伝えることの重要性とか、今の子ども達とかにそういう体験をもっと身近にしてもらう必要性とか、そういうことを特に学べたなって思います。

鎌田 そういふうに感じるようになったきっかけっていうのは、大きなところはありますか？

安藤 大きなきっかけ…モグリウムを小学校に設置したりとか、カタマルシェでちっちゃい子が環境に興味を持つきっかけ（プロジェクトWET「驚異の旅」八郎湖版の体験ブース）として活動の方法を知らなかったので、ゲーム方式とかを通してやったりとか、学校に設置してるからもっと身近に見れたりとか、そういう効果もあるんだなとちょっとずつ感じていました。

鎌田 安藤さんははちリバをやったし、カタマルシェの時もスタッフをやって子どもに対応してくれたし…あと、プロジェクト WET の資格も取ったよね。

その中で今、伝える活動っていうのを言ってくれた訳ですけど、安藤さんの活動って高校の時のさっき行った作品も伝えるって部分では価値のある活動だったと思います。…ごめん、言いながら考えてるんだけど…高校の時の作品を見ても前々から伝える活動に関心を持ってるんだと思うんだけど、いつ頃からそんな関心抱いてたかって覚えてますか？



2023/9/30 プロジェクト WET 講習会

安藤 えーっと、多分幼稚園とか、物心ついたあたり、家の前が田んぼだったんですよ。ちっちゃい時に。そこで結構カエルを捕まえたりオタマジャクシを飼ってたりして、なんか自分自身がちっちゃい時に環境と関わったことで今動物が好きだったり環境問題とかに興味があるようになったので、今の小学生とかにも楽しさとかを伝えられないかなと元々高校の時から考えていて。

それで、はちプロにも興味を持ったので、特にやっぱりカタマルシェとか小学校にモグリウムを置くとか、そういう活動が結構印象が残ったというか、いい活動だと思いました（笑）。

鎌田 ありがとうございます（笑）。

津田 僕は一度、安藤さんのイカを描いてる作品を学校で見たことがあります。ああいう美術の作品を作ってみんなに見てもらってっていうのと、さっきの伝えるって話と、今言ってたカタマルシェとかカードゲームで喋りながらとかカードみたいなものを使ってやる活動って、結構別の活動ですか？普通に、関係しあってる感覚ですか？

安藤 イカの絵は一応授業で、美大の村山修二先生の授業なんですけど、その素材、描くものの素材にこだわるって授業だったのでそれはイカ墨でイカを描いたんですよ（笑）。

高橋 墨でやる…？

五社 あの捌いていた…。

安藤 捌いてました、イカを（笑）。

菅原 何匹ぐらい捌いたの（笑）。

安藤 5匹くらい…捌いて（笑）。

菅原 美味しくいただきました？

安藤 食べました。食べて、その墨で描いたんですけど。そういうやっていることと活動はまた別で、いつか繋がったらいいなって気持ちで。特に私は今子どもにすごい興味があって、学童とかでアルバイトしてるんですけど、子どもと美術と生きものを繋ぐ方法を今模索している最中って感じですよ。



※インタビューで触れ忘れましたが、安藤さんには「八郎潟モグリウム」の新パンフレットをデザインしてもらいました。こちらでご覧になれます。



氏名	五社 光希
所属	秋田公立美術大学
学年	1年
出身地	富山県射水市



(1) 氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること(学内・学外問わず)を教えてください。

五社 大学で頑張っていることは…何だろう、全部頑張ってるんですけど…(笑)。

一同 (笑う)

鎌田 なんか、自分がこれやってるの、結構珍しいと思う、みたいな…。

五社 为什么呢…あ、私、かわいいものと優しいものが好きなので、そういうものを自分で作りたいなと思って、こう…キャラクターを作ったりしてるのと…。

高橋 あ、コップに、なんかいるなって(医者のコップに書いてあるキャラクターの絵を見て)。

五社 あ、それ…(笑)。

高橋 (笑う)

安藤 かわいい(笑)。

五社 こういうの描くの好きで…(笑)。あと、最近頑張っていることは絵を描こう!と思ってデカめのキャンバスを買いました。

鎌田 はい、ありがとうございます。先日の地震は大丈夫でしたか？

五社 地震は…大丈夫でした！

鎌田 ああ、ならよかった。近いんでちょっと、気になってたんですけど。

五社 よかったです。

(2) はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えてください。

五社 はい。私が参加した理由は津田さんと同じく、5月にあったモグリウム見学会が大学のこういうのありますよってところにあって。じゃあ…行くぞ。モグリウムってなんだろう、何もわからない。って感じで参加して、そこからなんかわかんないけど楽しいなって感じで（笑）。



2023/6/24 塩曳潟生きもの調査

そこからはちプロ学生部にも参加して、他が、なんかやってる感じで…。まず、私元々富山県出身で八郎湖の存在さえも知らなかったので「ああ、そんなところがあるんだなあ」と思って、お話とか聞いて結構、干拓されて、とか…。「あ、すごい。住んでる土地にもそういう歴史があるのって面白いなあ」と思って…。あと、小学校の時は結構森とか行ったりしてたんですけど、そこからあんまり。中学校以降はインドアな生活をしてたので、すごい新鮮だったのがあります。

鎌田 新鮮だって感じた部分はどの辺ですか？

五社 なんか…まず草むらに入ることなかったし、まずモグリウムとかで見るまで水草のことでもまず「そういえば生えてるな…」と思って。「そういえば水草ってやつが、あるな…」と（笑）。本当に無知すぎるので全部が未知、すごい。見たことないって新鮮に驚いて。

鎌田 なるほど。未知のことを知ることって面白いですよ（笑）。ありがとうございます。

(3) ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

五社 私の環境に対する意識でまず変わったのが、自然と自分の生活に結構壁を作ってたんですけど、元々虫とか生きものとか好きで、自分に攻撃してこなければ好きではあったんですけど…。

鎌田（笑）

五社 結構その、鑑賞物というか見るもので触れることが最近あんまりなくて、結構八郎湖子ども交流会の時とかで実際に川に入ったり草触ったりとかして、すごい壁が無くなったというよりは同じ空間に住んでる感じの感覚になってきたことと、結構驚いたのが全ての生き物になんか名前付いてるのすごい。すごくないですか？

安藤 (笑)

五社 あんまり魚とかをまじまじと見て来なかったので、川で泳いでる魚全部になんとかこの模様でこの形をしてるからこういう魚だって、名前全部付いてるのすごすぎる…すごい。種類めっちゃいると思ってびっくりですね。

鎌田 県立大生は当たり前だろって思ってるかもしれないですね。

県立大生 3人 (笑う)

鎌田 こういう感動があるってことですね (笑)。

五社 もうあんまり関わってこなさすぎた故のすごいいろんなことあってすごい！未知…とびっくりですよ (笑)。



2023/9/18 八郎湖子ども交流会



### 【「3. 全体ワークショップ」結果】

後半は、参加メンバー7名によるワークショップを行った。ワークショップは「ソシオ・マネジメント vol.1」p.29-30、「思いのたな卸し」と「思いの分布図作り」ワークを参考に、下記の内容で行った。

- 個人ワーク①：思いのリストアップ  
学生部で自分が実現したいと思うことを、思いつく限りリストアップして下さい。
- 個人ワーク②：思いをキーワードに  
リストアップした項目から、「ここが重要」というキーワード（15文字程度）を枠で囲んでください。
- 個人ワーク③：特に大切な思いを選び出す  
キーワードのリストから「特に大切！」と思う項目を最大5つまで選び、ふせんに書き出して下さい。
- 全体ワーク①：「思いの分布図」作成  
ふせんの内容を読み上げ、模造紙に貼り付けていきます。発表者と同じような内容のふせんがあった場合、その人も読み上げて重ねたり、隣に貼ってください。
- 全体ワーク②：これからの目標作成  
→全体で話し合い、特に大事だと思う目標を文章化しましょう。



【今回完成した「思いの分布図」】

		現在～2024 年度				2025 年度		2026 年度以降	
はちプロ内でできるテーマ	メンバーと仲良くする	モグリウムに来た生きものの図鑑を作る	観察日記を付ける。 あるけど、あんまり見れてないので、もっとちゃんと見たいね。	自分の知識等を活力として、活動に貢献		環境政策が取組みの国内外の事例を知り、想像力を養う	コウガイモの花を咲かせる (もし気候的に咲かないならあきらめる)		タガメを呼ぶ
		モグリウムに来た生物の図鑑を作る			新しい水槽を作る				マルコガタノゲンゴロウを呼ぶ
	生きもののお名前、もっと知りた～い	↓ 淡水魚にも興味関心を深め、詳しくなる		卒論に活かせるような研究・調査方法、心構えは積極的に参考する	ビオトープを作る (エコトーンのあるもの)				
	モグリウム生物図鑑1じんを作ってみた	モグリウムに来た生きもののイラストを描く				マスコットを作ろう →八郎湖のマスコットのドラゴン、何か惹かれないというか、何とも言えない…と思っちゃう。 あと、モグリウムくんとかも…			
		モグリウムに来た生物の標本をつくる							
はちプロ外と協力が必要なテーマ	湿地 河川 湖 フィールドワーク etc…	八郎湖・その他の川にゴーグルして潜ってみたい！(水中撮影をした)	メンバーの興味・関心を活かす →活動につなげる	子どもと自然ふれあいイベントをもっとやる？ ※けっこう今ってインドア子が笛がちだと思うので	小さい子と生物調査/飼育するイベントをしたい。	マコモやヨシなどを使って手仕事体験など 資源活用と商品化したい(ウマヅラ? ささばうし)			
	八郎湖にいない時の八郎湖とのつながりを持つ家でモグリウム	湖岸からではない体験のあり方を作る ex) 水中。川の遡上、舟、空から ワカサギ釣り体験					低学年や幼稚園の子もわかるような紙芝居を作る。	水質比較	水草の復活
				地域との交流			モグリウムの認知度向上したいね ↑でも、認知とか理解には結構事前知識がいるよね～		



※完成した模造紙(手書き)をもとに、筆者が作成。

【今回立てた目標！】

- 生きもの図鑑(昆虫?ミジンコ?)を作る!
- モグリウムに子どもを集めるイベント・クラブ(定期的に、はちプロ学童部?)  
→ヨシ・マコモ活用工作など
- ビオトープを作る→常田・高橋がやると決めればできる
- (学生部の?)マスコットキャラを作る→ゆくゆくは商品化?

